

「あばしり学ロセットコース」をサポートしました

9月10日（土）に「あばしり学ロセットコース」の第4講座をサポートしました。

この取り組みは「地域のフィールドで大人との交流及び多様な体験学習を通じて、地域の魅力を再発見し郷土愛を育む」ことを目的として、網走市により毎年、小学生を対象に行われています。今年の本コースは来年の2月まで続くそうです。



今回は「美岬のヤチダモ」周辺の遊歩道を巡りながら、身近な自然の中で木々に触れたり匂いを嗅いで、その違いや働きについて考えてもらいました。

参加したのは小学生高学年が9名、サポートとして高校生5名、大学生が3名でした。

散策しながら「オオバボダイジュの種はなんでこんな形？」「木の皮が剥けて無いけどどうして？この木はかれちゃう？」次々と質問しな

がら、正解あり、珍回答有りで散策は続きます。

途中、以前丸太の集積場にしていた土場の跡地にたどり着き、当時、重機により裸地になった箇所にコケが生え、草が生え、白樺が生え、今はその下にトドマツが育つ様子を見ながら、こうして森林が再生していくことを話しました。

林内にちょっと入ると落葉でフカフカの地面に大量のシカの糞やキノコ類。これらが時間をかけて栄養のある土へと変わり、その栄養は川へも流れて海を豊にすることも伝えました。



散策の終わりは幹周が5メートル近いヤチダモです。高さも40メートル近くで「森の巨人達100選」に選ばれた貴重な木について話しましたが、こども達には付近で見つけたカエルやカナヘビの方が興味の対象として勝っていたようです。

次に場所を移して森林の中で採れる素材を使った木工クラフトを行いました。木の実や枝等を使って、個性的な作品が次々と生み出されていきます。楽しみながら身近な自然に何かを感じてくれればと思います。

